

# 6. 加盟クラブ

* 千本クラブ .....	44
* 沼津グリーンテニスクラブ .....	46
* 明電舎ソフトテニス部 .....	49
* MOTORクラブ .....	52
* さわやかクラブ .....	54
* 高専クラブ .....	56
* Spiritソフトテニスクラブ .....	57
* EASTC .....	59
* アクトSTC .....	61
* 千本ジュニア .....	63
* 原ジュニア .....	65
* 千本テニックス .....	67
* 沼津市中体連ソフトテニス .....	69
* 沼津市高体連ソフトテニス .....	70



# 千 本 ク ラ ブ

代表 石川 雅之

千本クラブの原点は、昭和 26 年（1951 年）～昭和 40 年（1965 年）代の沼津東高校・沼津工業高校・沼津商業高校の盛んな活動が基盤になっています。

千本クラブは、戦後まもなく愛好者を集め、少人数で市民クラブとして発足しましたが、昭和 35 年（1960 年）にこれまでのメンバーに加え各高校の OB 毎に行って同好会を菅野 真次氏を中心に、日置 儀夫氏、渡辺 福芳氏、菅沼 孝行氏、長橋 正武氏等の尽力により統合し、新しい「千本クラブ」としてスタートしました。

昭和 40 年代は、各高校 OB のトップの選手が、お互いに切磋琢磨して技術を高め、県下の各大会（全国クラブ対抗戦、県選手権、スポーツ祭、青葉大会等）に出場しては、常に好成績を上げ、沼津に「千本クラブ」ありと名を挙げました。その頃活躍した選手には藤本 昌男氏、日置 至誠氏、大橋 泰明氏、初又 祥生氏、石川 延房氏が挙げられ、昭和 48 年（1973 年）には日本ソフトテニス連盟より優良団体表彰を受けています。

その後、活躍する時代が数年間続きましたが、次第に転勤や転居等の事情が重なって会員が減り、最後には団体戦に出場できなくなる状態まで陥りました。しばらくの間、会員も少ないまま低迷の時期が続きましたが、次第に中学高校の先生方を中心に卒業生等にも声掛けをして少しずつ会員が増え、その後「市民クラブ」の名の通り、年代も 80 歳代から 20 歳代、男子も女子も、住居も沼津を中心に、裾野・御殿場・伊豆の国・清水町等と東部の広い地域にまたがり、幅広い仲間の集まりになっていきました。その為か、平成 16 年（2004 年）には日本ソフトテニス連盟より再び優良団体表彰を頂くことになりました。

会員の親睦を深めるために、平成 5 年（1993 年）8 月に、吉田 佐喜雄氏の計らいにより土肥町町営コートで合宿練習を行ったのが恒例となり、今年で 24 回目となります。最近はコート修理の為、清水町や御殿場でやっていますが、平成 26 年（2014 年）までの 21 回は、潮の香漂う土肥の地ということで思い出深い合宿になっています。

近年、記録に残る活躍をした会員を挙げると、愛知から沼津高専に転勤してきた佐野 秀則氏、会長もやられた大橋 泰明氏、横浜ゴムで活躍した木村 勝氏、三島協会時代から活躍を続けている秋山 武氏、シニアで活躍中の長橋 正武氏、一杉 常昭氏・石川 雅之氏等がいます。

現在、千本クラブの活動として誇れるものの 1 つに、ジュニアクラブの運営があります。会員に先生が多かった関係もあり、小中学生のレベルアップに何か支援することができないかと常日頃話題になっていたことから、『千本ジュニア』という名称で平成 18 年（2006 年）に、小学生を対象としたジュニアクラブを、創設し、今年で 11 年目を迎えています。毎週土曜日の午後の練習となるので会員自身の練習に大きな負担になりますが、子どもたちの喜

ぶ姿を楽しみに、有志が頑張って続けています。

千本クラブは、会員の勤める学校のコートで生徒達を指導しながら行い、今までに二中・今沢中・沼工・沼商・沼東・精華等で練習を行ってきましたが、現在は沼東を主に利用させてもらい、毎週日曜日の午後に汗を流しています。

合宿 平成5年（1993年）土肥



平成28年（2016年）清水町



# 沼津グリーンテニスクラブ

部長 村中裕紀子



私たち沼津グリーンテニスクラブは、昭和47年10月1日、静岡県東部で初めての一般女子のクラブとして誕生しました。

当時の沼津市体育協会主催の婦人ソフトテニス教室受講生からの、続けていきたいという声を受けて、後の第四代部長となった庄司順子を中心に組織づくりを行ない小柳敦子を初代部長として発足しました。

発足当初の部員は約40名、市営の香陵グランドテニスコートを中心に練習していたため当初のクラブ名は「沼津香陵テニスクラブ」でした。

昭和49年10月から、第二代部長 白石和子となり、練習も東京電力のコートをお借りして行なうようになり、昭和51年4月クラブ名を「沼津香陵グリーンテニスクラブ」と改名しました。

昭和51年、第三代部長 広瀬里子の時から、スポーツ店を営んでいた長橋正武様にコーチをお願いし、部員の光林京子宅のテニスコートを中心に、充実した練習を行なっていました。コートは竹林の中のクレーコートで、皆で一丸となり、整備や手入れを行なったのが懐かしく思い出されます。

このころから、部員も増え、合宿などで技術を磨き、県大会等での活躍も目立ってきました。

昭和54年、数名がクラブから独立して「乙女クラブ」を立ち上げたことにより、第四代部長に庄司順子が就任し、クラブ名を「沼津グリーンテニスクラブ」に改めました。

この年「全日本レディース大会」が始まり、県予選が行われました。この県予選大会には、今でも毎年参加し、多くのクラブ員が県代表選手となっています。



昭和56年9月28日 第2回総理大臣杯  
全国ママさん大会（熊谷市にて）



昭和56年9月20日 第1回小柳杯  
沼津精華高校のコートをお借りして行なっていた

昭和 56 年には、熊谷市で行われているクラブ対抗の「総理大臣杯全国ママさん軟式テニス大会」に参加をしました。以後、この大会への参加はクラブの目玉行事となります。

また、初代部長の小柳敦子さんが若くして亡くなりましたが、御主人の御厚意でカップをいただき、クラブ主催の小柳さんを偲ぶ大会「小柳杯」を開始しました。

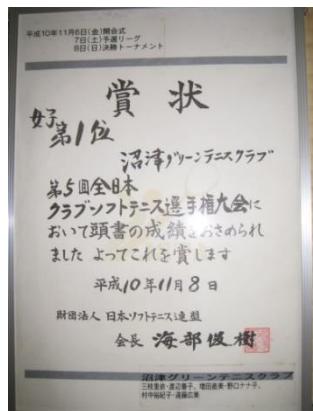
昭和 59 年には、庄司順子が沼津協会の副会長となり、以後、会計や事務局、理事長など歴代の役職を担い沼津協会でも中心的なクラブとなっていました。

平成 4 年、創部 20 周年の年に、日本ソフトテニス連盟から優良団体表彰を受賞したことを祝い、平成 5 年に創部 20 周年記念誌の発行と祝賀会を行ないました。

記念誌は、クラブの歴史とともに、ご夫婦でコート整備に協力してくださった角田元様、合宿などに協力いただいた長藤光昭様、ホームコートを提供してくださった光林哲哉様の他界は特に悲しい出来事として、掲載しています。

祝賀会には、昭和 56 年の第 2 回大会から参加している「総理大臣杯全国ママさん大会」を主催する熊谷市ソフトテニス連盟会長の松本富雄様が遠方より駆けつけてくださるなど、多くの皆様に祝っていただきました。

平成 10 年には、第 5 回全日本クラブ選手権において、優勝しました。これをお祝いする盾を前出の松本会長からいただきました。この優勝や全日本レディース大会での県代表としての活躍により「団体戦の沼津グリーン」として県内で高い評価をいただいています。



さらに、全日本クラブ選手権では第 16 回、17 回（平成 21 年、22 年）と 2 年連続で 3 位に入賞しています。

平成 16 年には、30 周年記念旅行を行ないました。日頃、一緒に練習しているシニアの男性陣などを含め総勢 21 名で伊勢志摩へのバス旅行でした。

平成 18 年には、第五代部長が現部長の村中裕紀子となりました。

今年（平成 29 年）は、創部 45 周年となり、7 月に伊豆への小旅行と大宴会を行ないました。大宴会では 45 年間の記念スライドショーでクラブの歴史を振り返りました。個人的な成績ですが、昭和 57 年には、石垣（村中）裕紀子がクラブで初めての、国体県代表選手となりました。静岡県連盟においても 7 年振りとなる東海予選を勝ち抜いての、

本大会（島根国体）出場でした。

昭和 60 年には白石和子が「全国女子明治大正会」で優勝しています。

平成 22 年のねんりんピック石川では、岡容子が県代表で出場した静岡県チームが、見事優勝しました。また、岡容子は平成 27 年の全日本シニア選手権女子 70 の部で 3 位入賞しています。

その他、県ランキングには、毎年、いずれかの種目でクラブ員が入っており、県連表彰では、平成 2 年に白石和子、平成 8 年に庄司順子、平成 12 年に鷺巣鈴恵、平成 21 年に村中裕紀子、平成 23 年に岡容子が功労賞を受賞しています。

沼津市体育協会表彰でも、平成 21 年に優秀団体表彰をクラブで受賞し、個人では、平成 15 年に遠藤広美、平成 16 年、平成 18 年に村中裕紀子、平成 20 年に朝倉弥生、平成 21 年、平成 27 年に岡容子が優秀選手賞を、平成 3 年に白石和子、庄司順子、平成 18 年に鷺巣鈴恵、平成 23 年に岡容子、平成 28 年に村中裕紀子が功労賞を、平成 9 年、平成 21 年に村中裕紀子、平成 27 年に鷺巣鈴恵が優秀指導者賞を受賞しています。

現在、日本ソフトテニス連盟、静岡県ソフトテニス連盟に登録しているクラブ員は、24 名で、内、審判資格を有するもの 22 名、指導員資格を有するもの 4 名と、現役で活躍している部員が多い一方で、練習参加を中心としたハガキ会員 22 名には、若手部員が多く含まれていることから、積極的に活動する若手部員となってもらうこと、また、新入部員の加入促進が今後の課題となっています。

最後になりましたが、沼津ソフトテニス協会の 70 周年をお慶び申し上げるとともに、協会のますますの発展のために、協会の一員として沼津グリーンテニスクラブも尽力していきたいと思っております。



木曜日夜間練習



火曜日昼間練習



2016 年合宿



# 明電舎ソフトテニス部

代表 井出 邦雄

明電舎の大崎・品川工場が沼津に移転してきたのは、1961年（昭和36年）です。その後、9年の時を経て、1970年（昭和45年）に明電舎ソフトテニス部が誕生しました。創立47年目を迎えるクラブです。

現在の部員総数は22名。活動は週2回の練習を基本としつつ春・夏合宿なども行い、技術の向上と親睦を図っています。

試合は沼津市の大会から全国大会まで、各種大会に参加をしていますが、昭和51年に青森で行われた全国実業団選手権に初めて参加して以来、この大会を年間の最大イベントと位置付けて今日まで脈々と引き継がれてきています。

平成28年までの主な成績をあげますと、本大会には36回の出場、最高位成績は全国ベスト16が6回、A・Bと2チーム出場したのが平成24年の東京大会を皮切りに3回あり、輝かしい成績を残してきたと考えています。

また、平成16年から実業団リーグにも挑戦を開始し、東海実業団リーグの1部を勝ち抜いて日本実業団リーグに6回の出場を果たしています。

そういう活動が評価された例として、1991年に日本連盟より表彰をうけ、日刊スポーツ新聞の裏一面で紹介された事例などがあります。

昭和51年 初参加 青森大会



日刊スポーツ 平成3年(1991年)2月27日 水曜日 ◎静岡6版 (24)

全日本実業団選手権大会の軌跡					
年度	西暦	県予選成績	本戦開催地	本戦成績	最終対戦相手
S 5 1	1976	3位	青森県青森市	BEST 3 2	電電近畿
S 5 2	1977	予選落ち	長野県上田市	-	-
S 5 3	1978	準優勝	宮崎県延岡市	初戦	新日鉄八幡B
S 5 4	1979	予選落ち	栃木県黒磯市	-	-
S 5 5	1980	優勝	滋賀県長浜市	BEST 3 2	カワサキカット
S 5 6	1981	準優勝	島根県安来市	BEST 3 2	関東自動車
S 5 7	1982	優勝	群馬県高崎市	BEST 3 2	東邦ガス
S 5 8	1983	優勝	奈良県明日香村	3回戦	日立金属安来
S 5 9	1984	準優勝	鳥取県鳥取市	3回戦	専売広島
S 6 0	1985	優勝	山梨県石和町	初戦	NTT北陸
S 6 1	1986	予選落ち	沖縄県	-	-
S 6 2	1987	準優勝	京都府福知山市	BEST 3 2	京都市役所
S 6 3	1988	予選落ち	北海道苫小牧市	-	-
S 6 4 (H 1)	1989	準優勝	福岡県福岡市	BEST 3 2	川口市役所
H 2	1990	優勝	石川県能都町	BEST 3 2	JT広島
H 3	1991	準優勝	山形県山形市	BEST 3 2	川口市役所
H 4	1992	予選落ち	徳島県徳島市	-	-
H 5	1993	準優勝	愛知県一宮市	初戦	
H 6	1994	3位	福島県会津若松	BEST 3 2	京都市役所B
H 7	1995	優勝	広島県因島市	2回戦	東邦ガスB
H 8	1996	準優勝	大阪府大阪市	初戦	親和銀行
H 9	1997	準優勝	神奈川県厚木市	初戦	熊本電力
H 1 0	1998	3位	熊本県熊本市	初戦	
H 1 1	1999	優勝	富山県高岡市	2回戦	北陸電力石川
H 1 2	2000	予選落ち	宮城県仙台市	-	-
H 1 3	2001	準優勝	高知県高知市		
H 1 4	2002	準優勝	静岡県静岡市	3回戦	宇部興産
H 1 5	2003	3位	埼玉県狭山市		北陸電力石川
H 1 6	2004		岡山県	3回戦	川口市役所A
H 1 7	2005	優勝	兵庫県	BEST 3 2	川口市役所A
H 1 8	2006	優勝	秋田県大館市	<b>BEST 1 6</b>	NTT中国広島
H 1 9	2007	Aチーム推薦	大分県大分市	BEST 3 2	沖電気
H 2 0	2008	優勝	新潟県上越市	初戦	東洋観光
H 2 1	2009	優勝	千葉県長生郡	2回戦	川口市役所
H 2 2	2010	優勝	山口県宇部市	<b>BEST 1 6</b>	東邦ガスA
H 2 3	2011	Aチーム推薦	岐阜県瑞浪市	<b>BEST 1 6</b>	大鹿印刷A
H 2 4	2012	Aチーム推薦	東京都	<b>BEST 1 6</b>	川崎重工明石A
H 2 4	2012	Bチーム3位	東京都	初戦	日亜化学A
H 2 5	2013	Aチーム推薦	長崎県佐世保市	<b>BEST 1 6</b>	宇部興産A
H 2 6	2014	Aチーム推薦	和歌山県白浜町	<b>BEST 1 6</b>	アキムA
H 2 6	2014	Bチーム3位	和歌山県白浜町	初戦	大阪ガス
H 2 7	2015	Aチーム推薦	岩手県	BEST 3 2	東京ガスA
H 2 7	2015	Bチーム3位	岩手県	初戦	松戸市役所
H 2 8	2016	Aチーム3位	愛媛県今治市	3回戦	三菱重工相模原A
H 2 9	2017	優勝	福井県福井市	初戦	松戸市役所

そのような経歴のあるクラブですが、ここまで道のりは決して順風満帆ではありませんでした。個人の業務の都合や年齢的な要因で部員が年々減少し、練習どころかクラブ存続に危機的な状況が生じてきました。

当クラブはあくまでも企業体の中で同好の士が集まったクラブであり、好成績をあげたからといって特別な優遇があるわけではありません。また、採用等に対しても特別枠があるわけでもありません。

危機感を抱いたメンバーは近隣の学校へ出向いて練習し、その選手たちが一般の試合へ出場できるよう協会に働きかけるなどしてソフトテニスの面白さと向上心が芽生える土壤を醸成する努力をしていきました。

さらにはホームページを立ち上げるなどして、当クラブの活動状況を知ってもらうことに努めたのです。当然のことながら、当クラブメンバーとしては彼らのお手本となるプレーヤーとなるべく練習でも試合でも努力したのは言うまでもありません。

当クラブには国体の静岡代表や天皇杯選手など個人戦でも優秀な成績を収めた選手が何人もいますが、上記のような生い立ちから個人戦よりも“チームの輪”が実感できる団体戦を優先する気質があります。

自分たちも「団体の明電」と自負し、団体戦は他社（クラブ）に引けを取らない成績が残せていると考えているところです。

最近では県内ばかりではなく近隣の実業団クラブなどからもお声がかかり、合同練習や練習試合を行うことにより活動範囲が広がっています。

最後に、昨今ソフトテニスの競技人口が減少し硬式テニスの隆盛とともにマイナ化が一層進んできていることが叫ばれるようになってきました。それでも中学の部活動ではまだまだメジャーな競技です。さらにはジュニア育成も各所で行われるようになってきています。

当クラブは十代から六十代までのメンバーが在籍しており、第一線で活躍するメンバーは選手としての成績を向上させ、それらを退いたメンバーはそれぞれの役割を持ってソフトテニス界に貢献できればと考えています。

本70年誌に寄稿するにあたり、協会に所属した多くのクラブが消滅するか活動停止を余儀なくされていることを思い浮かべてしまいました。協会に所属する一クラブとして協会が益々発展する必要があります。当クラブとしても微力ではありますが発展的継続に向けて一助となり、ソフトテニス界に、また社会に対して貢献できるクラブであり続けることに努力することを宣言して結びとさせていただきます。





# MOTOR クラブ

幹事 村中 優

MOTORは、平成29年2月1日に発足した、沼津ソフトテニス協会で最も新しいクラブです。

ME I DEN O B THE O T H E R (明電OBその他) の頭文字をとって、“MOTORクラブ”と命名しました。モータークラブ又は“モートルの明電“になぞらえて、ドイツ語読みで、モートルクラブと読んでください。

MOTORクラブの発足を語るには、明電舎ソフトテニス部の歴史を紐解かなくてはなりません。

明電舎ソフトテニス部は、昭和45年に発足しました。その後、昭和50年頃から、部員が増え、クラブが纏まり、レベルがアップしてきました。そして、昭和51年には初めて全日本実業団選手権青森大会に出場しました。その頃は、実業団県予選も20チーム前後のエントリーがあり、全国大会の出場権を得ることができる3位入賞は大きな壁でした。青森大会を皮切りに、宮崎（昭和53年）、滋賀（昭和55年）、島根（昭和56年）、群馬（昭和57年）、奈良（昭和58年）、鳥取（昭和59年）、山梨（昭和60年）、京都（昭和62年）、福岡（平成元年）・・・と現在に至っています。

現在、既に明電舎を退職した人たちが奈良大会（昭和58年）あたりまでの常連でした。昼食をとるや否やテニスコートに駆け出し、終業のチャイムが鳴ると同時にテニスコートに駆け出し、短い休憩時間をソフトテニスの練習に費やしました。その頃のメンバーの結束は強く、今でも、深い絆で繋がっているように思えます。

MOTORクラブを立ち上げるまでは、籍を明電舎ソフトテニス部に置いてはいるものの、他のクラブで練習や試合に出場し、バラバラになった状態でした。

もう一度、明電舎ソフトテニス部OBとして纏まろうということでMOTORクラブを立ち上げたわけです。

昭和53年当時の沼津ソフトテニス協会に所属する事業所クラブは、国鉄沼津、東京電力、東芝機械、藤倉電線、沼津電報電話局、矢崎電線、矢崎総業、図書印刷、㈱リコー沼津工場、富士通、明電舎の11事業所に及びました。

現在残っている事業所クラブは、明電舎ソフトテニス部のみです。我々（MOTORクラブの正会員）は、次の時代を担う、若い力を取り込まないと事業所クラブは存続しないことに早くから気づき、会社にお願いをして優秀なソフトテニス選手を次々と獲得しました。持続可能な（サステイナビリティ）事業所クラブ作りに成功しました。

“老兵は去るのみ”我々は独立し、あとは後輩に明電舎ソフトテニス部の将来を任せました。

発足して5ヵ月が経過するところですが、困った問題に直面しました。練習の段取りをしてもメンバーが集まりません。高齢化が進んでいること、平日の夜に練習日を設定したこと等が原因だと思っています。新しい発想で、何とか盛り上げていきたいと考えています。

最近、うれしい出来事がありました。初めてのMOTORクラブとしての団体戦、“平成29年度 小野杯クラブ対抗戦”シニアの部で優勝したことです。



MOTORクラブのゼッケンを付けました。どのペアも無敗で完全優勝でした。大変盛り上がり、モチベーションがアップしました。

県選手権の覇者、ねんりんピック優勝の立役者、ジュニアのコーチ、中学のコーチ、沼津ソフトテニス協会の会長等々、ソフトテニス界を支えているメンバーです。



MOTORクラブ規約の目的を下記の通り、定めました。

- (1) 明電舎ソフトテニス部をささえ、共に戦ってきた仲間の親睦を図る。
- (2) 本正会員の日連への会員登録、審判資格、指導者資格等を管理する。
- (3) 県トップクラスのシニア選手を輩出する。
- (4) ジュニアの育成を行い、底辺の拡大に寄与する。

この目的を基に、P D C Aを回し、スパイラルアップし、若手を入れ、持続可能な（サステイナビリティ）クラブとして、頑張って行きたいと思っております。

最後になりましたが、沼津ソフトテニス協会の創立70周年をお慶び申し上げるとともに、この年に発足したMOTORクラブをどうぞよろしくお願ひいたします。